

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 佐藤 正範	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	県立体育施設管理運営事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	施設の利便性を高め、施設利用者を増やすことを通じて、スポーツの普及を図る	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に配慮した施設管理及び利用者ニーズに対応したスポーツ教室等の企画運営を行う。 ・利用者が安全に、かつ、安心して利用できる施設とするため、各施設に必要な整備を行う。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	県立体育施設（5施設）を利用した利用者数	目標値		271,139.0	271,139.0	271,139.0	人
	式・定義	1年間に県立体育施設（5施設）を利用した人の延べ人数	実績値	263,401.0				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	440,672	346,411
うち一般財源 (千円)	380,839	303,789

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

・体育施設等の利用者総数が過去最高水準である（県立水泳プールの25mプールが4月間、石見武道館のアリーナが5月間休館を考慮しても）。

・武道館の柔道教室の参加者が、平成26年度東部西部を問わず急減したが、平成27年度は東部が持ち直しつつある。

・水泳プールの個人利用について、トレーニング室利用は順調に増加しているが、プール利用が低迷している。

【柔道教室】	武道館	石見武道館	【プール個人利用】	プール	トレーニング室
H26	63人	49人	H25	28,645人	33,489人
H27	86人	30人	H26	21,947人	35,656人
	+23人	▲19人	H27	21,774人	41,337人（※ただし、25mプールは4月間休館）

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・新規の施設利用者を増やす試みが適切に実施されていることの成果が現れている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・石見武道館の主たる競技である柔道のスポーツ教室の参加者の減少傾向が継続している。
 - ・平成26、27年度の7、8月は台風等による天候不順から例年より気温が低かったことからプールの個人利用者は減少した（平成27年度は25mプールが冬期4月間の休館をしたことを考慮しても）。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・小学生以下の県内柔道競技者数が減少する傾向の中で（H20：722人→H26：424人）、H27は更に減少（H27：396人）。H25の全国的な柔道に関する事件・事故が影響していると考えられ、イメージが良くないことから柔道教室への参加がためらわれていると考える。
 - ・プールの個人利用において7・8月の夏季の割合が年間利用者の7割強であるが、そのうち大多数が利用する屋外プールは天候の影響を受けやすい。
- ③原因を解消するための「課題」
- ・柔道に対する良くないイメージ・先入観を取り除き、参加しなくなる柔道教室となるよう企画・広報をする必要がある。
 - ・プールの個人利用者は夏季に大きく偏っており、夏季の天候に影響を受けやすいため、それ以外の期間の個人利用数を増やすことが安定した施設利用につながる。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・平成26年度柔道教室の参加者が急減した東部施設においては、平成27年度に参加者が大幅に増えていることから、東部施設の取組（柔道教室の参加者の意見を参考に、柔道教室の講師と武道館職員で協議を行い、教室の開催回数を増やすことで、一般の参加者が倍増したこと。島根県柔道連盟と連携を図り、未就学児や小学生を対象とした柔道の普及を目的とした少年少女柔道教室を武道館で開催したことにより、スポーツ教室に参加する小学生が25%増加したこと。）を参考に西部施設においても参加者の増加を目的として関係者と連携・協議・改善策の実施をする。

・夏季の利用者が引き続きプールを利用することがその他の期間の利用の増加につながる。夏季利用者の意見を踏まえ、その他の期間の利用促進策等について検討し、実施する（平成27年度は、利用者アンケートを基にプール個人利用者への一般指導の回数の増加や冬期の水温及び室温の調整を行い、一定の効果がでていた）。

・課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）